

2023年 3月期 第1四半期 決算説明資料

ほこ
誇れる歴史がある
つく
創りたい未来がある



株式会社 浅沼組

東証プライム市場

証券コード：1852

この資料には、弊社の業績予測並びに将来の見通しに関する記述がございます。
これらの記述は、現在入手可能な情報及び将来に影響を与える不確実な要因に係る仮定に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく記載と異なる結果になる可能性があります。

はこ
誇れる歴史がある
つく
創りたい未来がある



ページ	項目
P 3	2023年3月期 連結 第1四半期 前期比
P 4	2023年3月期 連結 第1四半期 進捗
P 5	2023年3月期 個別 第1四半期 受注状況
P 6～	リニューーアル技術の高度化①,②
P 8～	脱炭素への取り組み①,②

2023年3月期 連結 第1四半期 前期比



(単位：億円)

主な経営指標	2022/3期		2023/3期	
	1 Q実績	前期比	1 Q実績	前期比
受注高	287	46	333	46
完成工事高	291	17	324	33
完成工事粗利益	23.1	1.4	31.1	8.0
完成工事粗利益率	7.9%	0.0P	9.6%	1.7P
営業利益	2.1	△0.5	9.9	7.8
親会社株主に帰属する 四半期純利益	1.3	△0.3	7.6	6.3

2023年3月期 連結 第1四半期 進捗



(単位：億円)

主な経営指標	2022/3期			2023/3期		
	1Q実績	実績	進捗率	1Q実績	計画	進捗率
受注高	287	1,366	21.0%	333	1,416	23.5%
完成工事高	291	1,344	21.7%	324	1,433	22.6%
完成工事粗利益	23.1	131.4	17.6%	31.1	143.4	21.7%
完成工事粗利益率	7.9%	9.8%	—	9.6%	10.0%	—
営業利益	2.1	48.4	4.3%	9.9	56.1	17.6%
親会社株主に帰属する 四半期純利益	1.3	37.5	3.6%	7.6	41.2	18.5%
配当 (配当性向)	—	363円 (78.1%)	—	—	*191円 (74.8%)	—

* 当社は、2022年8月1日を効力発生日として、普通株式1株につき2株の割合をもって分割いたしました為、2023年3月期の1株当たりの配当予想については、当該株式分割の影響を考慮した金額を記載しております。

2023年3月期 個別 第1四半期 受注状況



(単位：億円)

	2022/3期		2023/3期		
	1 Q実績	構成比	1 Q実績	構成比	前期比
建築	25,270	88.2%	25,219	78.6%	△51
官庁	4,777	18.9%	10,779	42.7%	6,001
民間	20,492	81.1%	14,440	57.3%	△6,052
土木	3,379	11.8%	6,873	21.4%	3,493
官庁	2,349	69.5%	4,277	62.2%	1,927
民間	1,030	30.5%	2,595	37.8%	1,565
建土計	28,650	—	32,092	—	3,442
官庁	7,127	24.9%	15,056	46.9%	7,929
民間	21,523	75.1%	17,036	53.1%	△4,486

ICT関連システムの活用と導入による『ReQuality』の推進

- 当社独自技術（耐震技術、廃材利用、環境配慮素材など）を活用し、よりよい空間を提案。

BIMを活用した企画・設計提案



改修前



改修後

- ICTやBIMなどの技術も活用しながら高品質な施工を実施。工事だけでなく、周辺の安全、環境により配慮した施工計画を立案。

BIMを活用した施工計画



内部足場計画

ICTを活用した施工管理

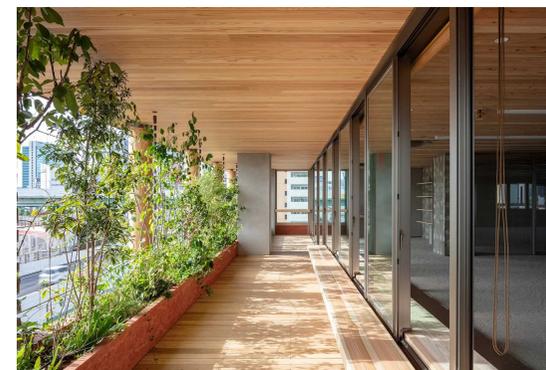


タブレットを利用した配筋検査

- 『ReQuality』の第1弾名古屋支店改修PJ

心身の健康に配慮した空間デザイン

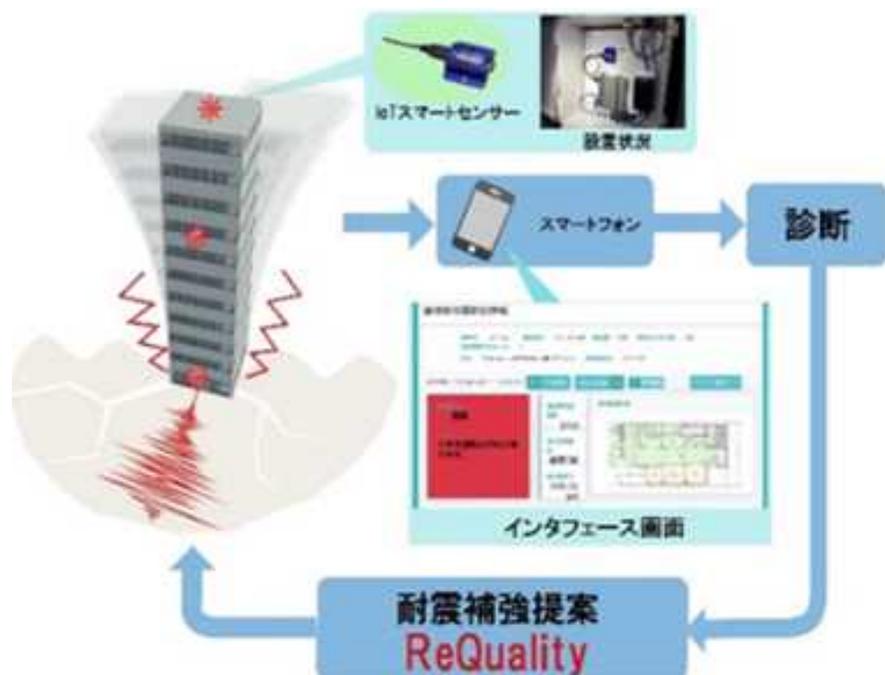
建物の利用者の健康や快適性を評価する「WELL認証」を取得（築30年のオフィス全体の改修での予備認証取得は日本初）



耐震補強提案

○地震モニタリングシステム

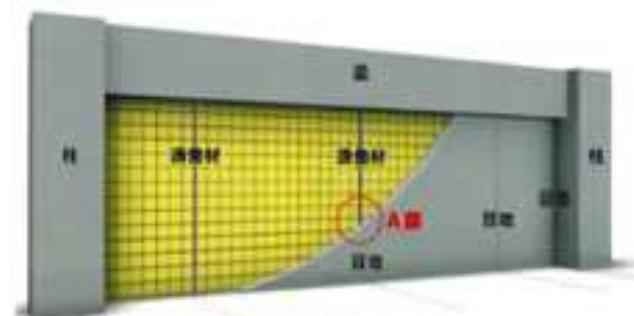
- ・地震時の建物の揺れを即時に分析・診断
- ・クラウドシステムを活用しいつでもどこからでも建物の診断結果にアクセス可能
- ・地震発生後の建物について耐震調査・工事の必要可否を判断し必要な場合は耐震補強を提案



長寿命化による低炭素化へ

○長寿命化のための技術力

- ・コンクリートのひび割れを制御し、壁面や床面にひび割れを起こさずきれいな状態を保存でき、長寿命化に寄与（CCB工法）



CCB工法



床CCB工法

脱炭素への取り組み①

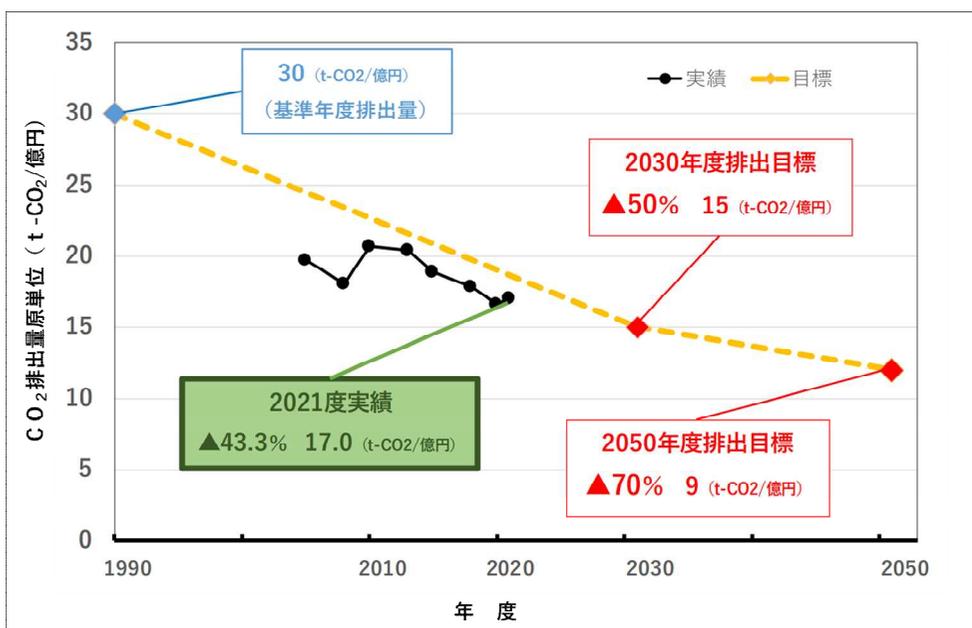
長期CO₂削減目標（スコープ1+2）

施工高1億円当たりのCO₂排出量を1990年度比で

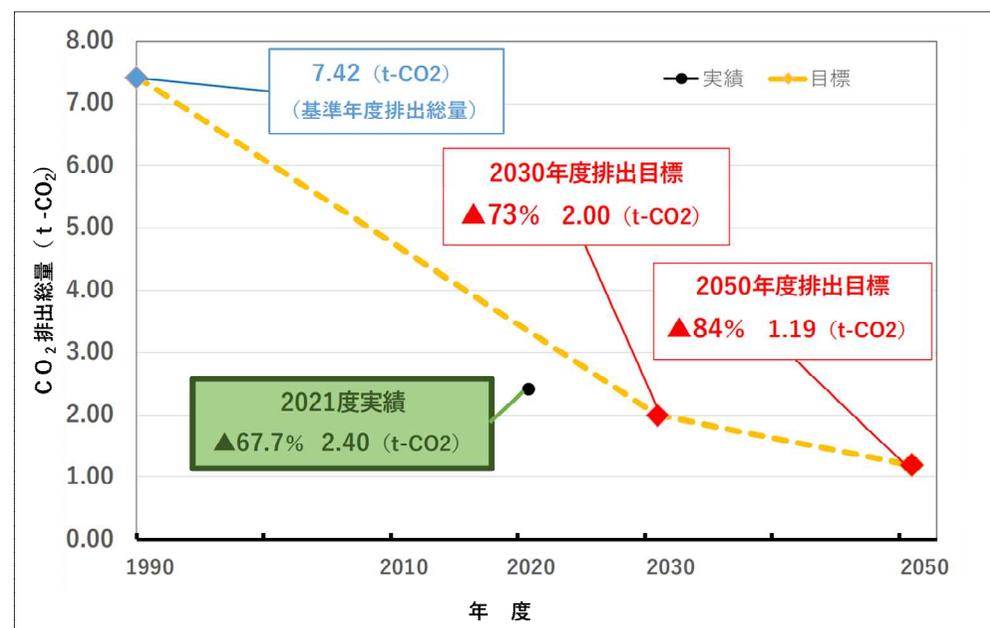
2030年度までに50%、2050年度までに70%削減」（原単位目標）

2030年度までに73%、2050年度までに84%削減」（総量目標）

CO₂削減の推移



原単位目標（2021年度更新）



総量目標（2022年度より）

スコープ3について

- ・2022年度中に算定方法の検討を始め、削減目標の設定検討に入る予定。
- ・スコープ3設定後にスコープ1+2の目標を改めて見直します。

作業所における様々な取り組み

CO2削減

CO2削減率50%の
環境配慮型コンクリー
トを施工に導入

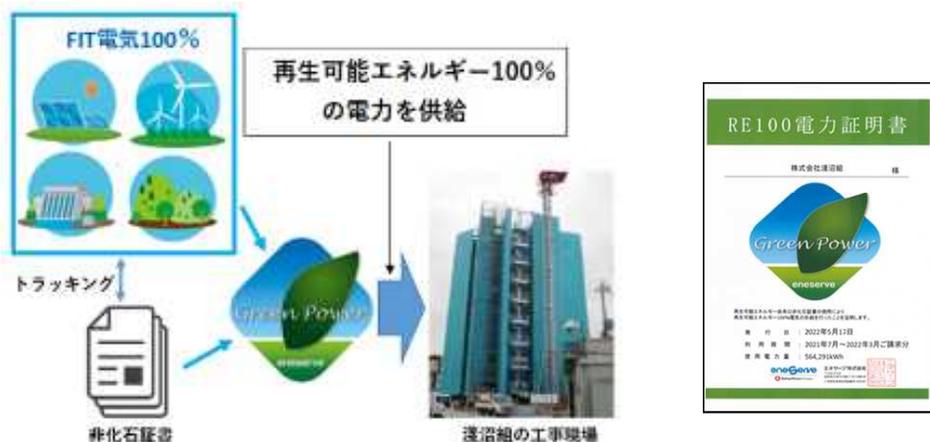


生物多様性の保全

設計施工案件でCASBEE
(建築環境総合評価システム)による評価を取り
入れ、Aランク評価を50%以上とする



再生可能エネルギー100%の電力を新規着工作業所
全てに導入へ



再生可能エネルギー供給の概念図

2021年度 564,291 kWh



生物多様性簡易評価ツール
「いきものプラス」を採用し、作業所に隣接する恩知川や緑地
等の環境を保全

The logo for Asanuma, featuring a stylized human figure in teal with a red dot above its head and a blue square above its right shoulder.

株式会社 浅沼組

2022年8月26日

ほこ
誇れる歴史がある
つく
創りたい未来がある



お問合せ先

コーポレート・コミュニケーション部

Tel 06-6585-5500 Fax 06-6585-5556

Mail asanuma_ir@asanuma.co.jp